

令和7年度 市浦地域住民懇談会② 案件・回答

開催日時：令和7年9月26日（金） 18時00分～19時00分

開催場所：十三コミュニティセンター

参加住民：15名

出席議員：和田祐治議員、藤森真悦議員

懇談テーマ：

未来へつなぎたい・守りたい地域の強みについて ～2040年に向かって～

【今後の人口推移とまちづくりの理念について説明】（ふるさと未来戦略課長）

【意見等】

①テーマに関するもの

意見）市浦の特徴的なものは、まずはやっぱりしじみだと思う。全国的にも有名で、他の地域とは一線を画す位置付けのものだと思っている。現在は漁師が獲って販売しているが、五所川原の特産として、これまでとは違うものも展開していけないかと考えている。

例えば、しじみを使った加工品として「しじみせんべい」を作れないかと考えている。しじみのエキスや出汁を作った時に出るむき身をせんべいにして、五所川原の特産のおみやげ品として販売したい。また、機械で流れ作業的に大量生産するのではなく、例えば地元のお母さん方が作った手焼きのせんべいにするなど、そういったところで雇用等も満たしていけないものかと思っている。漁協でやるにはコスト等もかかるし、なかなか単独でできるものではないけれど、ちょっとしたヒントになればと思う。

市外からきてこの地区に住んでいて、漁協の組合員になりたいという人がいた。このように、仕事があれば外からでも入ってくる人が実際にいる。これも何かのヒントになればと思う。

市長：持続可能な地域の実現のためには、今までここに伝わってきている生業を守る事が重要です。市浦地域にはしじみや農業、市浦牛など様々な強みがありますが、なかなか後継者が見つけられない、後継者を育てられない現状にあります。行政で地域に働きかけることはできるけれども、地域の中で育てていく姿勢が最も大事だと思っています。

しじみに関しては、しじみだけを売るのではなく付加価値をつけようということで、国の制度を利用して商品開発に取り組むことになっていますので、漁協の若い人たちの力を借りてタイアップしながら進めていきます。

また、しじみのみならず、例えばアワビなど、プラスアルファの収入を得るためのものをぜひとも一緒にやりたいと思っています。内水面だけではなく海面も含めながら養殖を行うといった複合的な漁業を展開するように、行政もバックアップし、生業を作っていくことによって、若い人たちが更にやる気を出せるような漁業を作っていきたいと思っています。

Q) 市長の中では市浦牛はどういった位置付けにあるのか。

A) 市長：何とか後継者を育てたいと懇談会も開催しており、こちらから北里大学などに声掛けもしていますが、人を育てるために現場に行く飼育者を行政で見つけるのは非常に困難です。以前、地域おこし協力隊でも募集をしたことはありますが、なかなか食いついてこない。ですから、地域の中で、人材育成に向けた取組をしていただきたいと思います。

市浦牛に関しては、(市浦地域の) どの地区であっても重要なことなので、少しでも頭の中に入れておいてもらえればと思います。将来的に作る人がいなくなってしまうと、市浦牛は途絶えてしまうリスクがあると思っています。

(市長)

今年、十三の砂山まつりが復活しました。復活させたものを地域の方々がみんなで守ることによって、それがあからこそ集まりの場を設けられたり、外に出ての方がお盆にまた帰ってきたりといった、ひとつのよりどころになりますので、若い人たちが復活させたこのまつりに対し、地域の方々とバックアップをしていただきたいと思います。

市でも、これから新採用職員を各地域のまつりやイベントへ手伝いに出します。地域で行われていることを行政の職員がしっかり見て知ったうえで業務に取り組んでほしいと考えています。

②テーマ以外のもの

Q) 将来、脇元地区の集団移転も考えていかなければならないのではないかと思います。五所川原市周辺に市浦地域の集団移転をしたらこの辺りになる、といったような見通しを考えていただきたい。

前回の懇談会で、市浦の生活支援ハウスが老朽化で廃止になることは分かっていたが、なんとか存続する方向で考えてもらえないかという相談がきている。老朽化はあると思うけれど、地域住民の気持ちを汲んでいただいて、生活支援ハウスを再開してほしいと思っている。

A) 市長：（生活支援ハウス廃止について）市浦の生活支援ハウスは住宅として常時生活の場になっていたことから、市営住宅を紹介したりしてそちらに移動していただいたということでご理解いただきたいと思います。

（生活場所について）あくまでひとつの考えですが、将来的には例えば支所の近く、あるいは街中に高齢者が住めるような市営住宅を作ってそこに住んでもらうなど、いろいろ考えています。一人暮らしの高齢者が点在した中で生活するには限界が来るため、早い時期に中・長期的な、あるいは短期的なものも含めて、行政もしっかり考えて、議会に説明しながら進めていかなければならない時が来ると思っています。

Q) 十三には店は何件かあるが、生活するうえでの物が足りない。運転できる方は中里や金木、五所川原まで出られるが、高齢者は難しいと思う。自分も数年先はどうやって買い物をしようかということを今から考えている。

以前、広報の中に移動販売「とくし丸」の募集の記事が出ていたが、その話は今どうなっているか。

A) 市長：交通については地域内で移動できるバスが動いていますが、その使い勝手が悪い、使うにあたって困ることがあるのであれば、支所のほうに話をしてください。改善できるものは改善します。

移動販売については、五所川原市の場合、やろうという意思があっても運転手がなかなか見つからないという状態がここ1、2年続いており、難しい状況です。

にこにこ温泉のバスを動かして、1日何回か地域内を移動できるような状態を作っていますので、できればそちらをうまく利用しながら、移動について困りごとや要望があれば、相談をしてみてください。

Q) 災害時用のトイレをおいてほしい。

A) 市浦総合支所長：市浦にはあります。防災関係の備品については、市浦コミュニティセンターのほうにまとめて置いてあり、必要になれば運搬する形をとっています。

意見) 皆さんいろいろ経験やスキルがあると思うので、懇談会と懇親会を混ぜたような感じで、交流しながらお話ができればいいと思う。何かやりたいことがあれば、お手伝いができるかもしれない。